

2011年4月28日

植物を原料とした化学品の実現に向けて
～ 化学品事業の植物原料化（バイオ戦略）新展開～

三菱化学株式会社

三菱化学株式会社（本社：東京都港区、社長：小林 喜光、以下「三菱化学」）は、化学品の植物原料化の研究開発について、これまで豊富な実績と特許をもつ Genomatica 社（本社：米国サンディエゴ市、社長：Christophe Schilling、詳細は別紙参照）と戦略的提携に合意いたしました。

Genomatica 社は、植物原料から化学品を効率的に生産する発酵（製造）プロセスの設計のための代謝経路探索に高い技術をもち、既に植物原料から 1, 4 ブタンジオール、メチルエチルケトン等の化学品を製造するための多数の有力な特許を保有しております。一方、三菱化学は石油化学製品の生産を通じて培った高度生産技術及び分離精製技術を保有しており、両者のもつ技術を組み合わせることで、植物を原料とした化学品のプロセス開発を加速することができます。

今回の戦略的提携により、Genomatica 社が開発した植物を原料に 1, 4 ブタンジオールを製造する技術に、三菱化学の技術を組み合わせ改良した技術を用いて、中東、インドを含むアジアでの 1, 4 ブタンジオール事業化を検討することといたしました。また、その他の化学品に関しても、両社にとって戦略的なものと位置づけられる化学品について、植物原料から生産する技術を共同で開発してまいります。

三菱化学は、地球、企業の持続的発展に向け、新技術による「脱化石原料」への事業構造転換を進めており、既に自社技術で開発済みの植物を原料としたバイオエンブラである DURABIO™に加えて、PTT 社及び BioAmber 社と提携し海外事業展開を進めている生分解性プラスチック（GSPla®）の植物原料化にも取り組んでおります。（2011年4月26日発表資料ご参照）今回の提携により、その他の化学品についても植物原料化を進め、2025年に既存の化石原料のうち20%を植物原料化することを目指します。

以上

【本件に関するお問合せ先】
三菱化学株式会社 広報室
TEL：03-6414-3730

【Genomatica社 概要】

会社名 : Genomatica, Inc.
 設立 : 2000年
 所在地 : 米国サンディエゴ市
 社長 : Christophe Schilling
 資本金 : 非公開 (投資家から出資金合計: \$ 84MM)
 売上高 : 非公開
 従業員数 : 約80名
 主要事業 : 植物原料からの化学品製造プロセスの開発

【参考: 三菱化学のバイオ戦略 イメージ図】

